肺活量検査

どのくらい息を吸えるか、吐けるか、または吐くときの勢いを測ることで、肺の容量や柔らかさ、気管や気道の通り道の様子を調べる検査です。

【肺活量】

性別・身長・年齢から算出される予測値から、どのくらい多いか少ないかという数値です。80%未満の場合は、肺がかたくなったり呼吸筋が弱くなったりして肺が十分に拡がらないため、肺の空気を入れる容量が少なくなっている可能性があります（拘束性換気障害と言います）

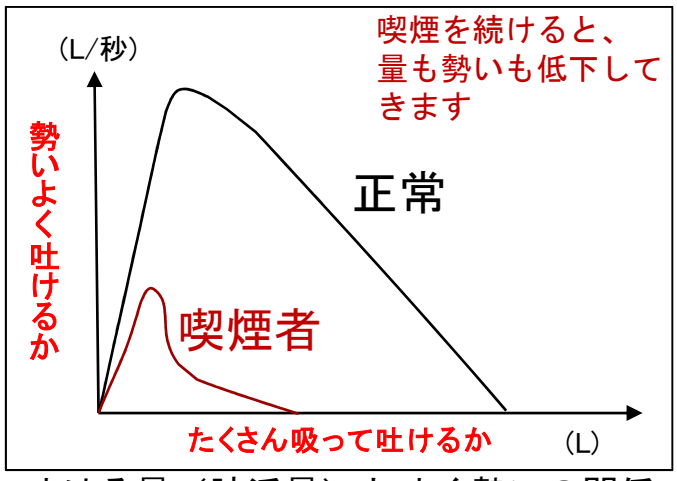
【1秒率】

1秒間に肺活量全体の何%の空気をはき出せるかをいう指標で、70%未満の場合は気道が狭くなって息が吐きにくくなっている可能性があります

（閉塞性換気障害と言います）

知っ得！ポイント　やっぱり、喫煙は、怖い・・・

喫煙は、気管支や肺に慢性の炎症を引き起こします。白血球の一種である好中球が肺に集まってきて、その好中球から『たんぱく分解酵素』や『活性酸素』などが放出されます。これらが肺の内部の細胞を破壊します。その結果、気道から出る粘液が増加し、気管支表面にある腺毛(せんもう)の機能が低下します。 これが、治りにくいせきやたんの 原因となります。
病気がさらに進行すると肺の奥の細い気管支がつまり、肺のガス交換能力が低下し、血液中に酸素が十分行き渡らずゼェゼェ、ハァハァの原因となってきます。



吐ける量（肺活量）と吐く勢いの関係